

世界の神保町

入場無料
(定員200名)

をめざす

「知のプラネタリウム」の発信

2024年6月26日(水)

午後6時~8時

出版クラブ4階会議室(神保町)

プログラム

基調報告

活字文化議員連盟で調整中

報告

「神保町の現在と課題」

植村八潮 専修大学教授



←お申し込みは
こちらから

パネルディスカッション

「日本の出版文化を世界に
—神保町の可能性」

浅田次郎 作家

植村八潮 専修大学教授:司会

瀬瀬くり 大屋書房店主

西村幸夫 國學院大学

観光まちづくり学部学部長

・神田学会会長

廣野真一 集英社社長

東京文化資源
会議

主催:東京文化資源会議

共催:神保町文化発信会議(以下構成団体:50音順)

活字文化議員連盟、出版文化産業振興財団(JPIC)、東京文化資源会議、

本の街・神保町を元気にする会、文字・活字文化推進機構、読売新聞社

後援:活字文化推進会議、千代田区



浅田次郎
(作家)

1951年東京生まれ。『鉄道員(ぼっや)』(直木賞)、『壬生義士伝』(柴田錬三郎賞)、『お腹召しませ』(中央公論文芸賞・司馬遼太郎賞)、『中原の虹』(吉川英治文学賞)、『終わらざる夏』(毎日出版文化賞)、『帰郷』(大佛次郎賞)、『蒼穹の昴』『プリズンホテル』シリーズなど、多彩な作風で読者を魅了し続けている。2015年紫綬褒章受章、2019年菊池寛賞、2020年日本歴史時代作家協会功労賞受賞。日本ペンクラブ第16代会長。近著は『兵諫』、『母の待つ里』。



植村 八潮
(専修大学文学部教授)

博士(コミュニケーション学)・日本図書館協会常務理事。東京電機大学出版局長を経て、2012年より専修大学文学部教授、現在に至る。専門は出版学で日本の電子書籍・電子図書館の研究・普及・国際標準化に長らく携わってきた。最近では、読書バリアフリーに取り組んでいる。近著に『電子図書館・電子書籍サービス調査報告2023：誰もが利用できる読書環境をめざして』(共編著、樹村房)



瀬瀬くり
(大屋書房店主)

江戸時代の和本と浮世絵、古地図を専門とする神田神保町の古書店「大屋書房」(明治15年創業)の4代目店主。江戸明治期の妖怪資料を蒐めた『妖怪カタログ巻・弐』(大屋書房)を刊行。季刊『怪』(KADOKAWA)や『別冊太陽』(平凡社)などで妖怪についてのコラムを執筆。国際浮世絵学会常任理事、公益財団法人アダチ伝統木版画技術文化財団評議員。



西村幸夫
(国学院大学観光まちづくり学部学部長
・神田学会会長)

東京大学名誉教授。東京大学助教授、同教授等を経て、2022年4月より現職。専門は都市計画。工学博士。近著に『都市から学んだ10のこと』(学芸出版社、2019年)、『県都物語』(有斐閣、2018年)など。千代田区景観まちづくり審議会会長、神田学会理事長などを務める。前日本イコモス国内委員会委員長。



廣野 眞一
(集英社社長)

1956年生まれ、大阪府出身。早稲田大学卒業後、集英社に入社。広告部、宣伝部、広報室、コンテンツ事業部などに勤務し、雑誌・書籍・コミックスのプロモーションや、「週刊少年ジャンプ展」などのイベント企画・運営を手掛ける。2020年より株式会社集英社代表取締役社長。

世界の神保町をめざす 「知のプラネタリウム」の発信